

等々力大橋(仮称) (東京都世田谷区～神奈川県川崎市)

令和2年10月19日(月)

建設局道路建設部

目次

1. 事業概要	1
2. 社会情勢の変化	8
3. 事業の投資効果	10
4. 事業の進捗状況	14
5. 事業の進捗の見込み	17
6. コスト縮減等	18
7. 対応方針(原案)	19

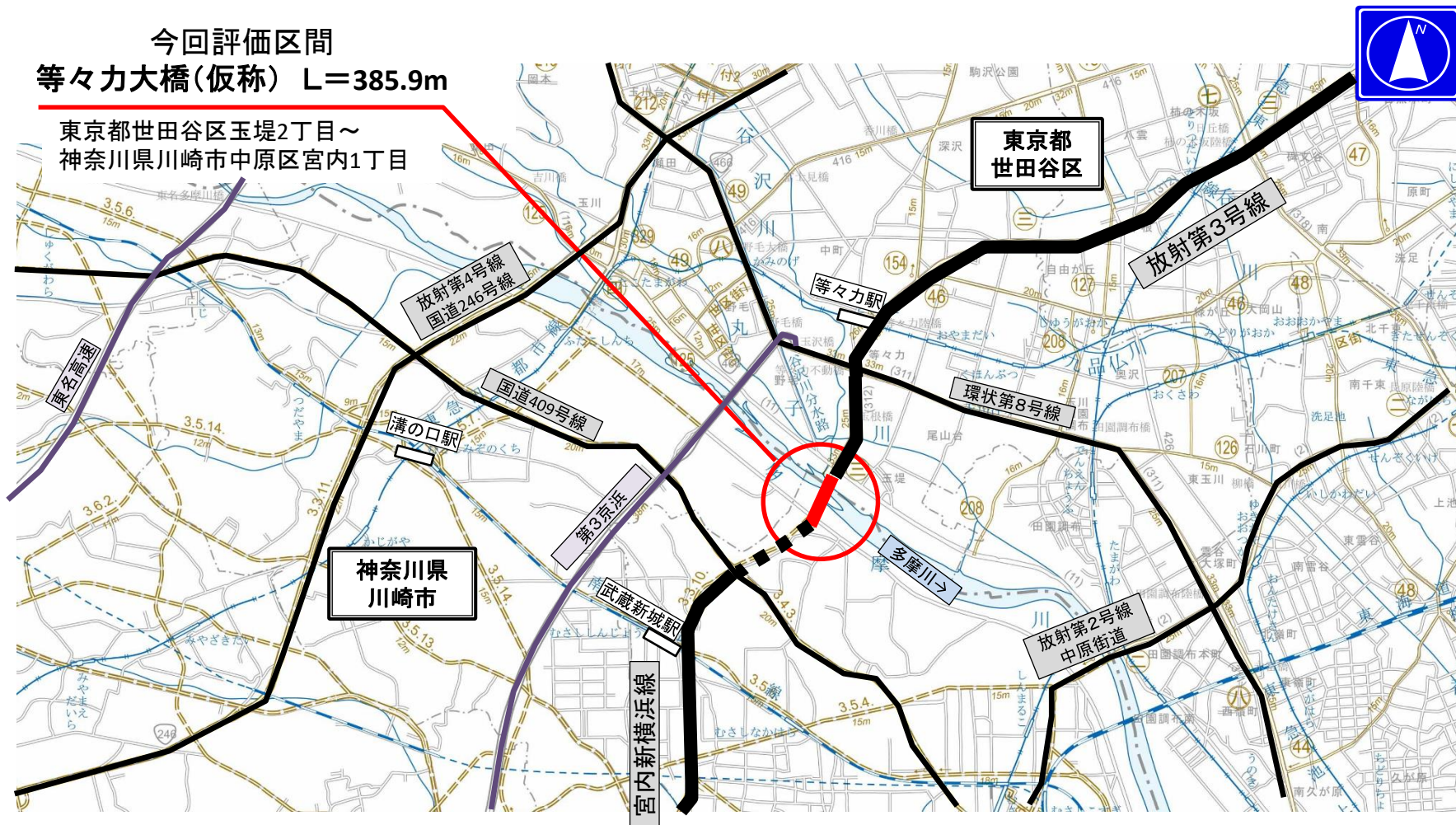
1. 事業概要

位置図

今回評価区間

等々力大橋(仮称) L=385.9m

東京都世田谷区玉堤2丁目～
神奈川県川崎市中原区宮内1丁目



1. 事業概要

事業期間

平成27年度～令和7年度

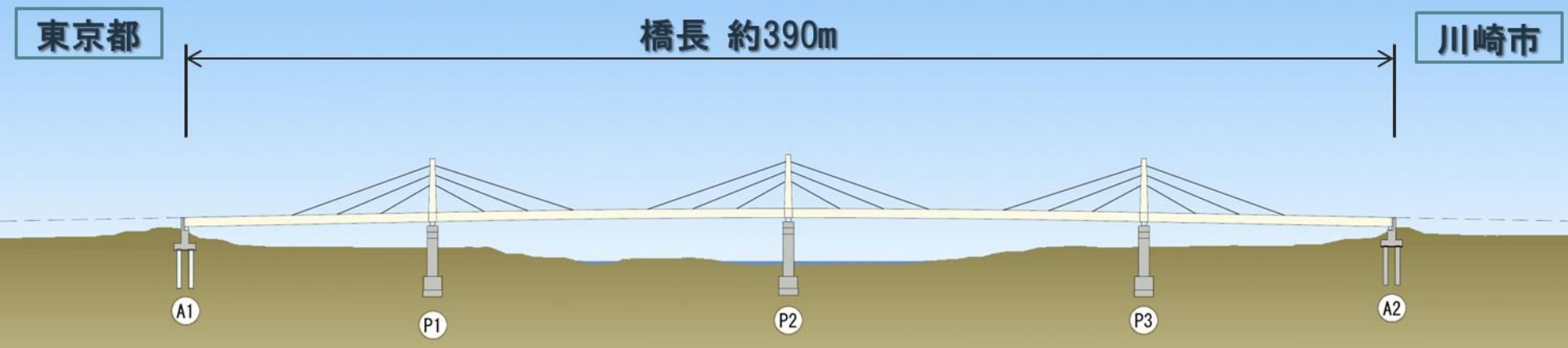
事業の概要

- 等々力大橋(仮称)整備事業は、東京都側の放射第3号線と神奈川県側の川崎市都市計画道路3・3・10号線宮内新横浜線をつなぎ、多摩川を渡河する都県橋の整備事業である。
- 本事業により、都市間の連携を強化し、広域物流ネットワークが形成されることはもとより、交通の円滑化や緊急輸送道路としての防災性が向上する。
- なお、整備にあたっては、都が整備主体、川崎市が管理主体となり、それら費用は双方が負担する協定を締結している。

1. 事業概要

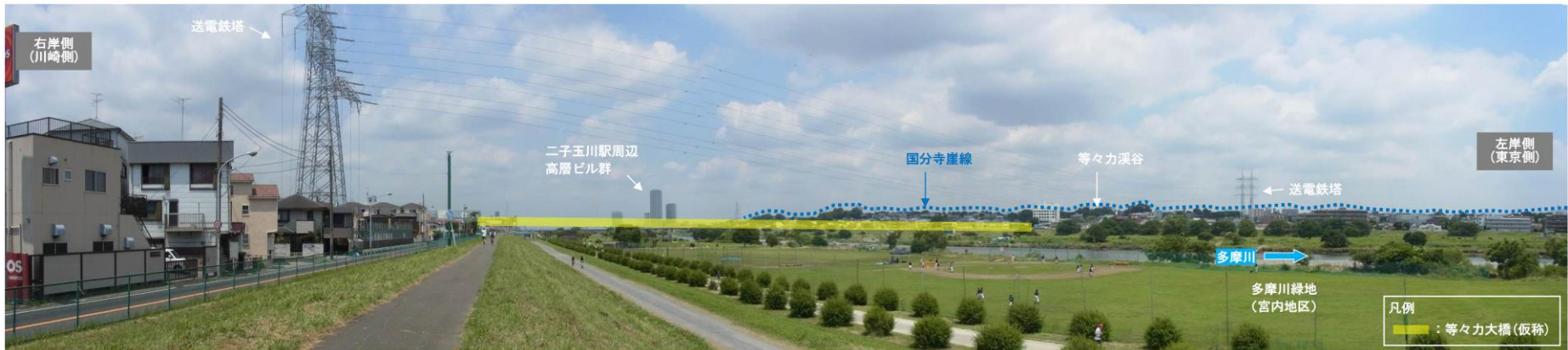
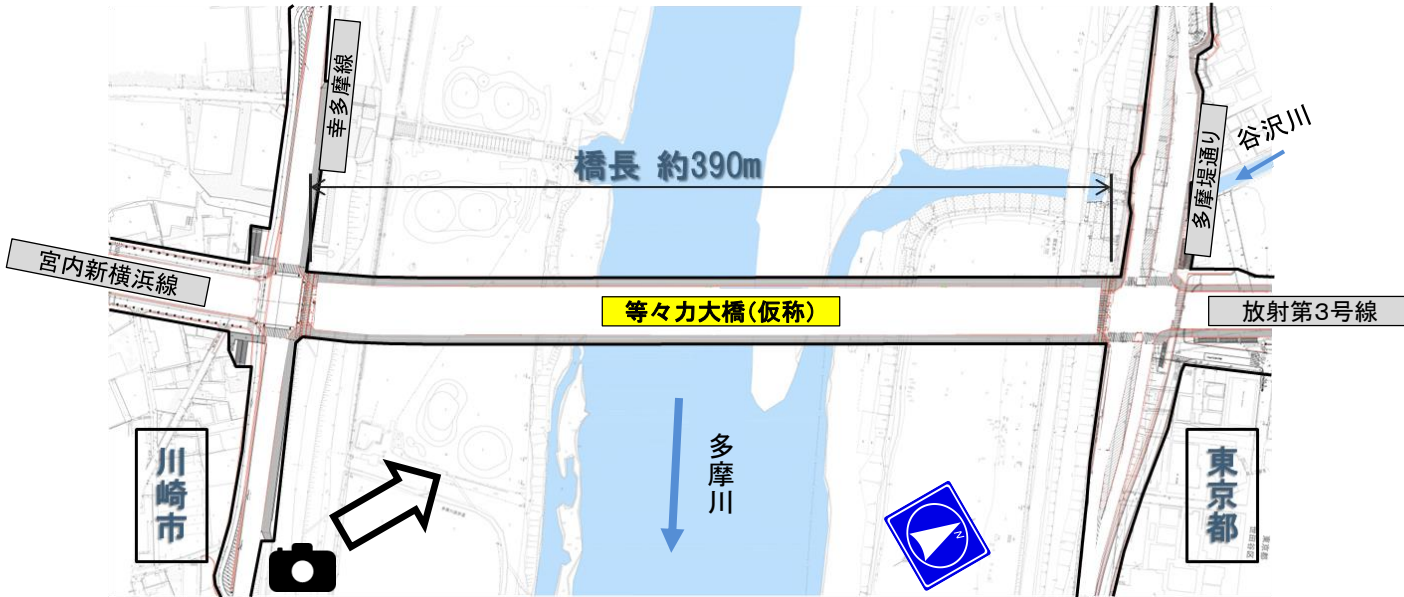
橋梁の概要

- ◎橋長 約 3 9 0 m
- ◎幅員 約 3 2 m
- ◎主塔高さ 約 1 7 m
- ◎上部工形式 鋼 4 径間連続合成箱桁橋（ケーブル補剛）
- ◎下部工形式 橋台 2 基（場所打ち杭）
橋脚 3 基（ニューマチックケーソン）



1. 事業概要

計画平面図および現況



現況写真

1. 事業概要

完成イメージ



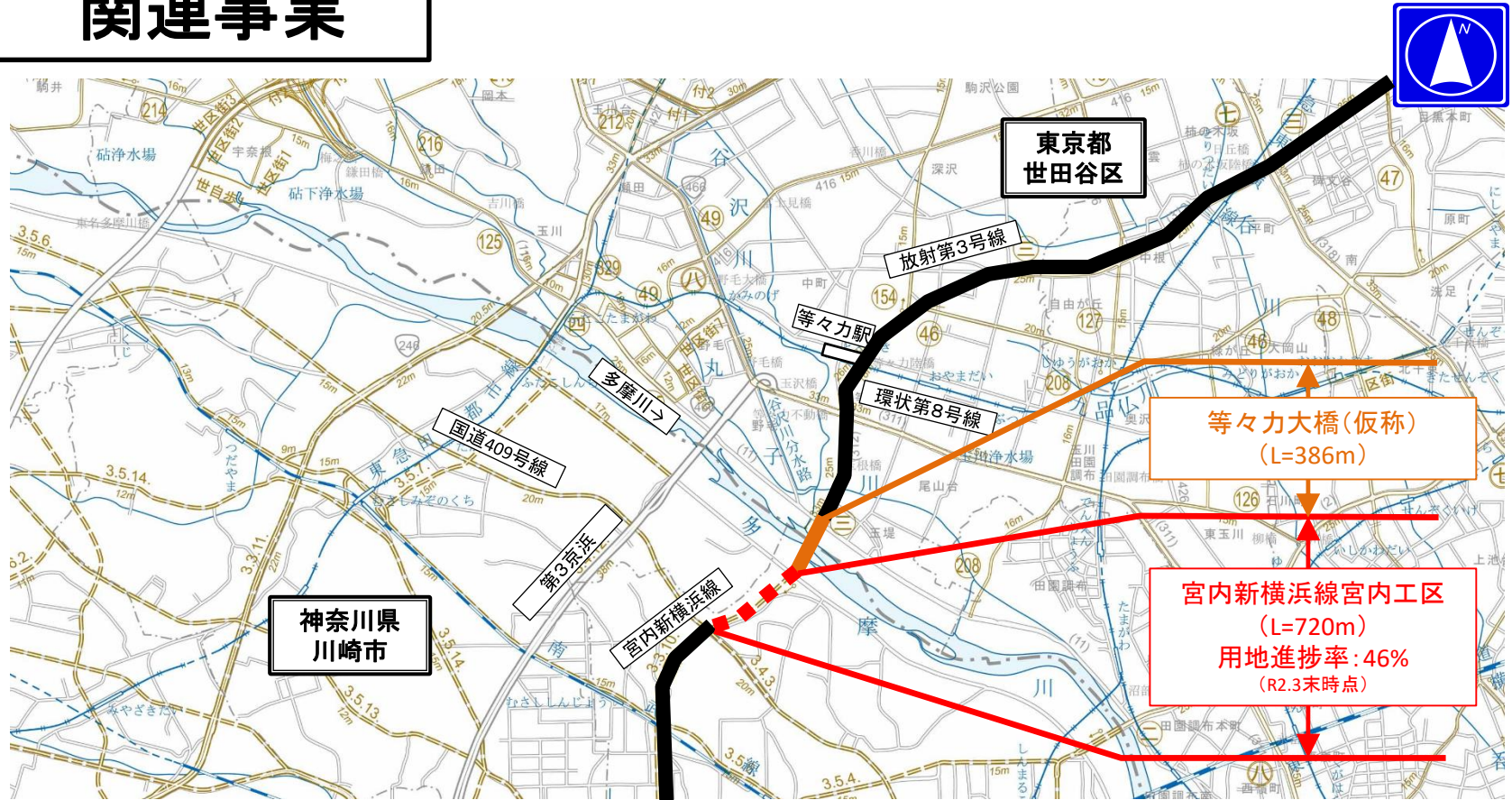
1. 事業概要

経緯

年度	計画等
平成28年3月28日	事業概要及び現況測量説明会
平成29年3月30日	用地測量説明会
平成29年11月13日	工事着手
平成30年2月26日	用地説明会

1. 事業概要

関連事業



- 関連事業は、等々力大橋(仮称)の南側～国道409号線間で川崎市側の宮内新横浜線宮内工区(L=720m)の事業を実施中。現在、用地の取得を進めており、取得率は46%。
- 事業認可は平成23年1月4日に取得。

2. 社会経済情勢等の変化

社会経済情勢の変化

本路線周辺の平成27年度の現在交通量は、平成22年度と比較しても、ほとんど変化していない。

現況自動車交通量【放射第三号線】(道路交通センサスによる)

平成22年度: 26,710台/12h

平成27年度: 26,063台/12h



2. 社会経済情勢等の変化

事業を取り巻く状況の変化

本事業区間の北側において、放射第3号線（環八～多摩堤通り）が平成17年度概成。現在は、2車線にて暫定供用。
南側において、川崎市による宮内新横浜線（宮内工区）が事業中である。



東京都側放射第3号線（暫定2車開放）



川崎市側事業終点（西下橋交差点）

3. 事業の投資効果

定量的効果

【便益(B)の算定】

現在価値化総便益額	304.9億円
走行時間短縮便益	270.0億円
走行経費減少便益	33.6億円
交通事故減少便益	1.3億円

【費用(C)算定】

現在価値化総費用額	128.1億円
工事費	97.1億円
用地費	28.2億円
維持管理費	2.8億円

※費用便益分析マニュアル(国土交通省 平成30年2月)に基づき分析

【費用便益比(B/C)の算定】

$$B/C = 2.4$$

3. 事業の投資効果

定性的効果

<交通>

- 交通渋滞の解消
- 物資流動円滑化への寄与
- 交通不便地域の解消
- 迂回交通の減少

<防災>

- 緊急車両の走行
- 災害時の避難路の確保

<くらし>

- 公共施設へのアクセス向上

<安全>

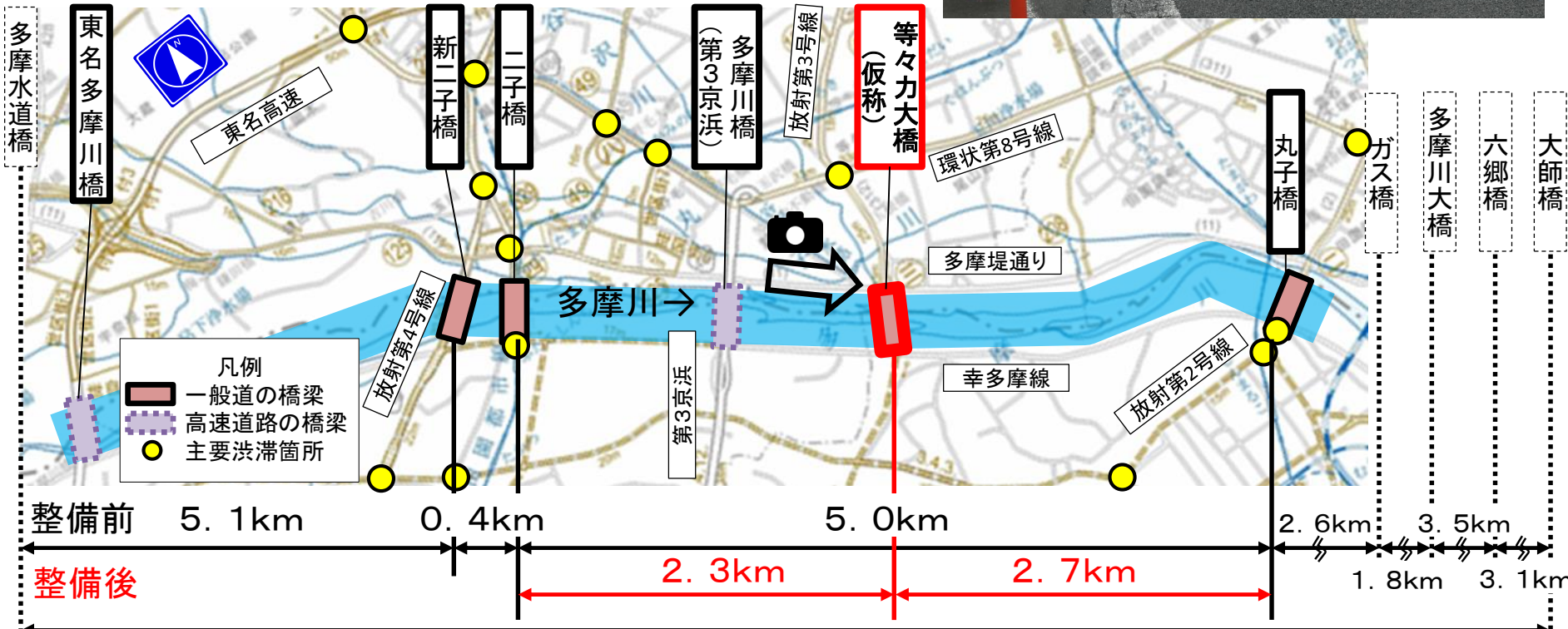
- 交通事故の減少
- バリアフリー化
- 自転車や歩行者のための走行空間の確保

3. 事業の投資効果

定性的効果

- <交通> ・交通渋滞の解消 ・交通不便地域の解消
- ・迂回交通の減少
- <安全> ・交通事故の減少

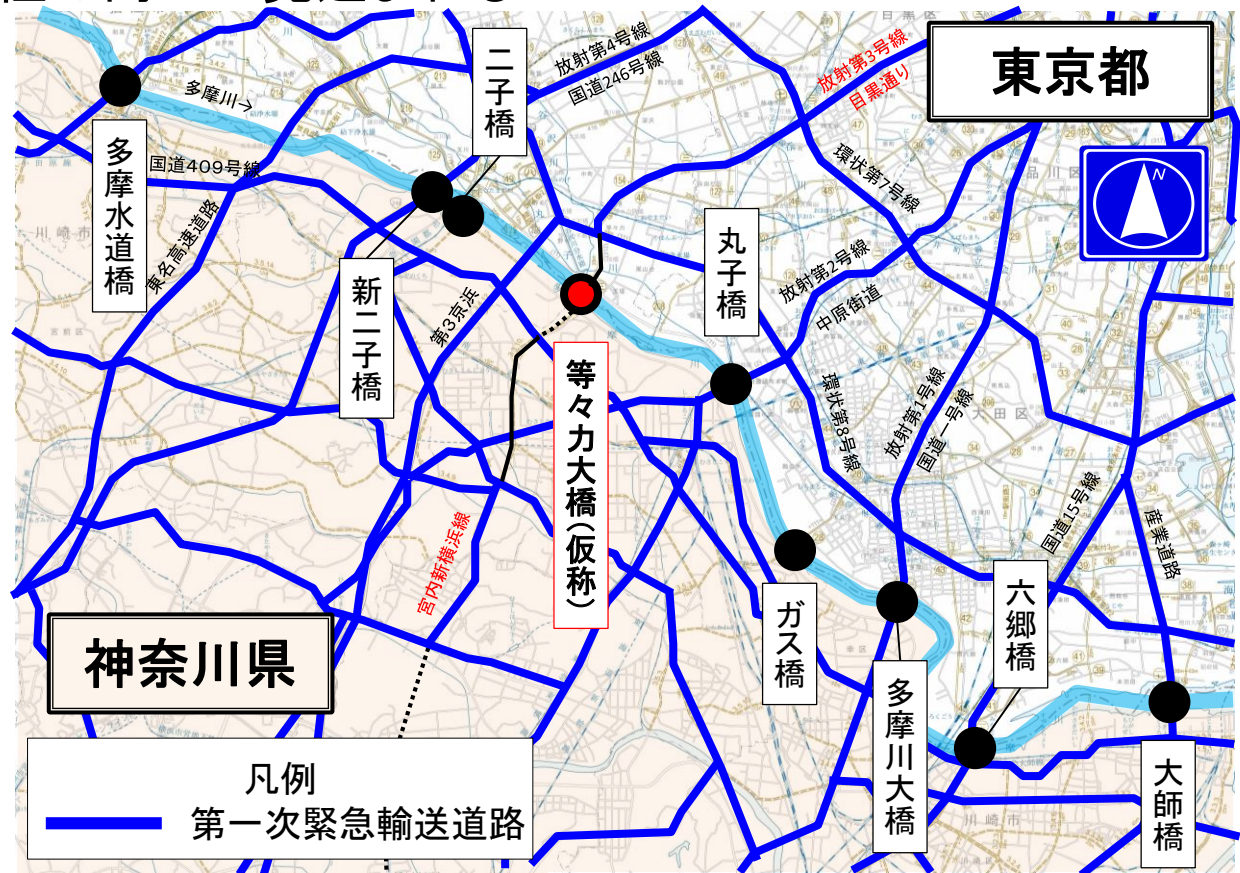
多摩川を渡河する橋梁間隔が短くなり、周辺交通が改善され、安全性の向上が見込まれる。



3. 事業の投資効果

定性的効果

〈防災〉・緊急車両の走行 ・災害時の避難路の確保
放射第3号線が都県を越えてつながることで、道路ネットワークが充実し、防災性の向上が見込まれる



第一次緊急輸送道路指定状況図

4. 事業の進捗状況

事業費の執行状況

(R元年度末時点)

	用地費	工事費	合計
全体事業費	3,100百万円	10,800百万円	13,900百万円
執行済額	1,242百万円	640百万円	1,882百万円
執行率	40.1%	5.9%	13.5%

用地取得状況

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B/A)
6,945m ²	3,550m ²	51.1%

4. 事業の進捗状況

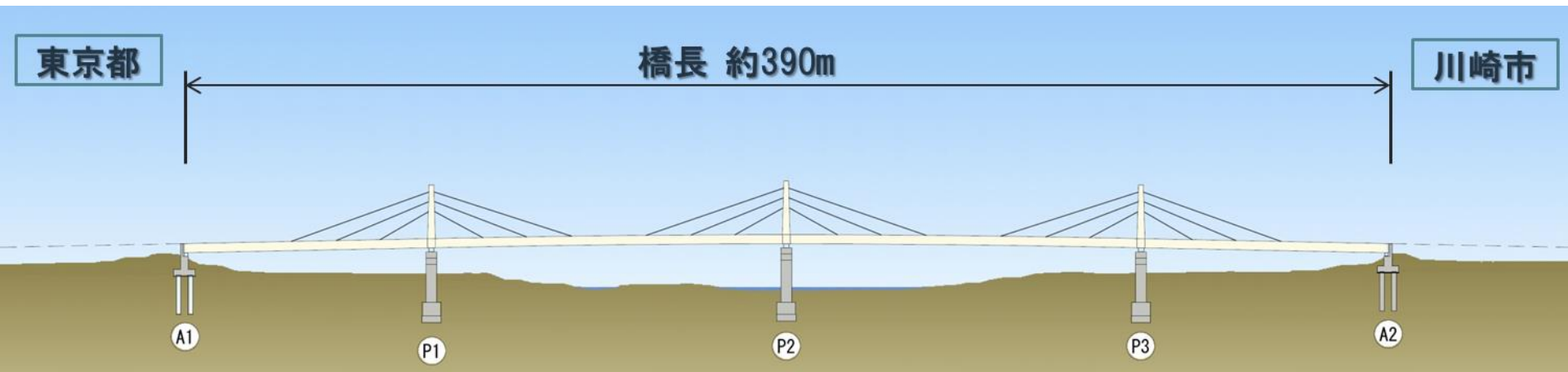
地元の理解・協力の状況

- 川崎市側多摩川沿線道路(幸多摩線)は概ね用地取得済み
- 東京都側多摩川沿線道路(多摩堤通り)は平成30年2月に用地説明会を実施し、問い合わせにも丁寧に対応しており、約2割用地取得済み

4. 事業の進捗状況

事業の進捗状況・残事業の内容

- 用地は約5割取得済み
- 工事は準備工である搬入路工事等を実施済み
- 残事業の内容は、用地取得、下部工事、上部工事、上部仕上げ工事、取付道路工事である



5. 事業の進捗の見込み

今後の事業の進捗見込み

- 令和7年度の事業完了に向け、引き続き用地取得を進めるとともに、今年度より下部工事に着手するなど、順次事業を推進していく

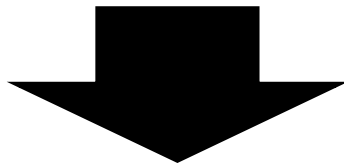
6. コスト縮減等

コスト縮減の取組

- 建設発生土の事業間流用や再生材の使用など現場の工夫や新技術の活用等により、コスト縮減に努めていく

7. 対応方針(原案)

- 本事業により、都市間の連携を強化し、広域物流ネットワークが形成されることはもとより、交通の円滑化や緊急輸送道路としての防災性向上の効果が期待できる
- 中止の場合は、整備効果を発揮できないだけでなく、これまでの投資に見合った効果も得られなくなる



継 続